日日是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2023年6月23日金曜日

GitHubにあるデータ・エクスポートのサンプル・コードを実行する

Oracle APEXの開発ツールのギャラリからインストールできるサンプル・アプリケーションおよび スターター・アプリケーションは、GitHub - https://github.com/oracle/apex/ に置かれています。



最新のAPEXのバージョン23.1のブランチを確認すると、samples-appとstarter-appsの他に**sample-code**というディレクトリがあります。



この中にdata-export というディレクトリがあり、その下に以下の7つのSQLスクリプトが置かれています。

- 1-basic.sql
- 2-columns.sql
- 3-column-groups.sql
- 4-highlights.sql
- 5-aggregates.sql
- 6-styling.sql
- 7-mail.sql

これらのスクリプトは、Oracle APEXの開発チームに所属するMenno Hoogendijkさんが、以前のAPEX Office Hoursで使用したものです。

Super Easy Report Printing in Oracle APEX 20.2!



どのようなスクリプトかは上記のビデオで解説されていますが、実際にORDSのRESTサービスとして実装してみました。

簡単に、実施した作業を紹介します。

これらのスクリプトは**サンプル・データセット**のEMP/DEPTを使用しています。

SQLワークショップの**ユーティリティのサンプル・データセット**を開き、**EMP/DEPT**を**インストール**します。インストールするデータセットの**言語**は**英語**を選択します。



上記のスクリプトは実行時に**APEXセッション**を作成します。**APEX**セッションを作成するには、**APEX**アプリケーションを指定する必要があるため、**APEX**アプリケーションを新規作成します。

アプリケーション作成ウィザードを起動し、空のアプリケーションを作成します。**名前はSample** Code Data Exportとします。

アプリケーションの作成をクリックします。

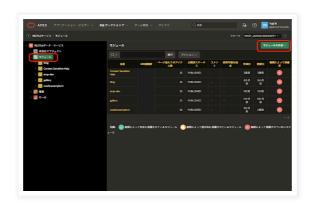


アプリケーションが作成されたら、アプリケーションIDの数値を確認します。APEXセッションを作成するときに、引数 $\mathbf{p_app_id}$ にこの数値を渡します。



サンプル・コードはすべてORDSのRESTサービスとして実装します。

SQLワークショップの**RESTfulサービス**を開き、最初に**モジュールの作成**を行います。



モジュール名をexport、ベース・パスを/export/とします。

モジュールの作成をクリックします。



モジュールexportが作成されます。

これからは、それぞれのサンプル・コードをRESTサービスとして実装する作業になります。

テンプレートの作成をクリックします。

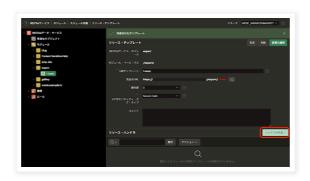


URIテンプレートはスクリプト名と同じ、1-basicとします。

テンプレートの作成をクリックします。

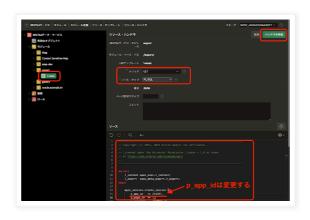


テンプレートが作成されたので、**ハンドラの作成**を行います。



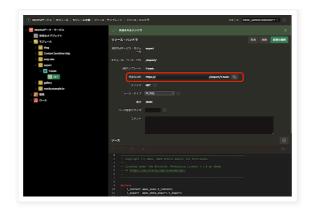
メソッドはGET、ソース・タイプはPL/SQLを選択します。ソースとして1-basic.sqlの内容をそのまま貼り付けます。apex_session.create_sessionの引数p_app_idの値は、先ほど作成したアプリケーションのアプリケーションIDに置き換えます。

ハンドラの作成をクリックします。

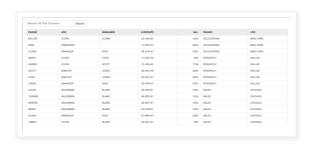


ハンドラが作成されます。

完全なURLが表示されるので、それをコピーして、ブラウザから呼び出します。

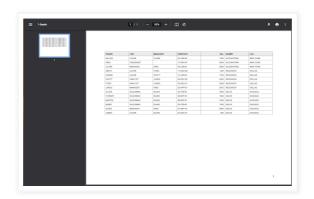


完全なURLにアクセスすると、以下のレポートが表示されます。



サンプル・コードでは引数**format**を指定することより、書式をHTML以外に変更することができるようになっています。

完全なURLの末尾に?format=pdfをつけると、以下のようにHTMLの代わりにPDFが出力されます。



同様の作業を行い、**2-columns.sql**を実装します。列のヘッダーの変更と、部門名でコントロール・ブレークされるように設定されています。



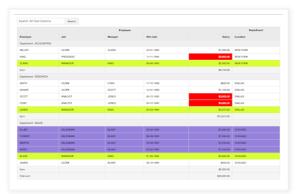
3-column-groups.sqlも同じ手順で実装します。カラム・グループとしてEmployeesとDepartmentを設定しています。

Search: All Text Colur	nns Search				
Engleyee					Department
Employee	Joh	Manager	Hire date	Salery	Location
Department : ACCOUNT	NS				
MILLER	CLERK	CLARK	23-01-1982	\$1,500.00	NEW YORK
KING	PRESIDENT		17-11-1981	85,000.00	NEW YORK
CLARK	MANAGER	KNS	09-06-1981	82,450.00	NEW YORK
Department : FESEARC	н				
SMITH	CLERK	FORD	17-12-1980	\$800.00	DALLAS
ADAMS	CLUNK	SCOTT	12-01-1983	\$1,100.00	DALLAS
SCOTT	ANALYST	JONES	09-12-1982	\$3,089.90	DALLAS
ront	ANALYST	JONES	03-12-1981	\$3,089.00	DALLAS
JONES	MANAGER	KNG	02-04-1981	\$2,075.00	DALLAS
Department : SALES					
ALLEN	BALESMAN	BLAKE	20-02-1981	\$1,680.00	CHICAGO
TURNER	SALESMAN	BLAKE	08-00-1981	\$1,580.00	CHICAGO
MAKTIN	SALESMAN	BLAKE	28-00-1981	\$1,250.00	CHICAGO
WARD	SALESMAN	BLAKE	22-02-1981	\$1,250.00	CHICAGO
ELAKE	MANAGER	KNG	01-05-1981	\$2,850.00	CHICAGO
JAMES	CLIEK	BLAKE	05-12-1981	\$850.00	CHICAGO

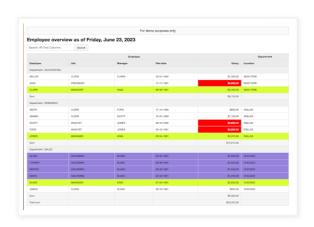
4-highlights.sqlも同じ手順で実装します。ハイライトを設定しています。



5-aggregates.sqlも同じ手順で実装します。合計を設定しています。



6-styling.sqlも同じ手順で実装します。ヘッダーが追加されています。



7-mail.sqlは、6-styling.sqlの出力であるレポートをメールに添付して送信します。

メールの送信するために、**電子メール・テンプレート**を作成します。**静的識別子**は**EMPLOYEES**とします。

作成したAPEXアプリケーションの、共有コンポーネントの電子メール・テンプレートを開きます。



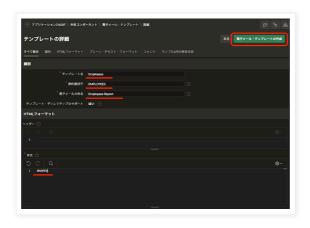
電子メール・テンプレートの作成をクリックします。



テンプレート名はEmployees、静的識別子はEMPLOYEESとします。

電子メールの件名はEmployees Report、HTMLフォーマットの本文は#NAME#とします。レポートはメールの添付ファイルとして確認できるため、メール本体は最低限の設定だけを行なっています。

電子メール・テンプレートの作成をクリックします。



電子メール・テンプレートが作成されます。



RESTサービスとして7-mail.sqlを実装します。APEX Office HoursではメソッドとしてPOSTを選択していますが、GETでも動作します。ですので、今までのスクリプトと同様の手順で、GETハンドラを実装します。

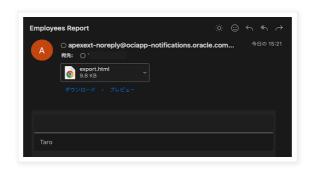
apex_session.create_sessionの引数p_app_idの変更の他に、apex_mail.sendの引数p_fromも変更します。7-mai.sqlには開発者のメール・アドレスが記載されています。

ブラウザから7-mailを呼び出します。引数としてtoとnameを指定します。

https://...../export/7-mail**?to=受信者のメール・アドレス&name=メール本文に表示する名前** 上記をブラウザよりアクセスすると、以下のようにメールを送信した旨、通知されます。

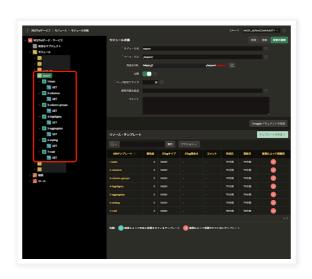
以下のようなメールを受信します。

6-stylingの出力がexport.htmlとして添付されています。



以上になります。

最終的に、7つのRESTサービスを実装しています。



APEX Office Hourを視聴や、スクリプトの内容を確認すると、よりパッケージAPEX_DATA_EXPORT の使い方を理解できると思います。

Oracle APEXのアプリケーション作成の参考になれば幸いです。

完

Yuji N. 時刻: <u>15:57</u>

共有

☆一厶

ウェブ バージョンを表示

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。 こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

詳細プロフィールを表示

Powered by Blogger.